

春風秋霜

9月号

平成 30 年 9 月 3 日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 諏訪原城の価値について

7月31日(火)に城好きで知られる落語家の春風亭昇太師匠と城郭研究家の加藤理文さんによる諏訪原城の講演会が行われました。両氏は、諏訪原城が日本の山城ベスト5に入る素晴らしい城であると強調していました。

城というと天守閣があると思いがちですが、戦国時代は天守閣を持たない城が主流であり、天守閣は城主の生活の場ではなく、倉庫として使われていたということでした。諏訪原城は全国でも珍しく、大規模な三日月堀が当時のままで残っているそうです。

諏訪原城の堀は、現在でも10mほどの深さのものが残っています。建設当時は更に3mほど深かったそうです。国内の多くの堀は、斜度が45度だそうですが、諏訪原城の堀は、最大57度と大変急なことも、この城の魅力だそうです。

昇太師匠は、教員が子供に諏訪原城の魅力を正しい知識を持って伝えなくては、市民の理解や自慢につながらないと言っています。更に、市民が自慢するようになれば、来場する人も増え、島田市の活性化にもつながると話していました。この話は、これからの文化の伝承や地育にもつながる話だと思いました。



2 夏休み明けの生徒指導について

最近の生徒指導上の大きな課題は、不登校の増加です。島田市の不登校数は、近年、近隣市に比べ大変少なくなってきました。これは、SSWRの活用やケース会議の定着など、各校の努力の結果だと考えています。しかし、昨年度から増加に転じたことには注意が必要です。

特に夏休み後は不登校数の増加が心配されます。夏休みの生活リズムから学校生活のリズムに対応できないことや、夏休みの課題の未消化など、様々な理由があると思います。心配な子供には、できるだけ複数の教員で子供の表れを共有し、適切な対応をお願いします。

また、友達関係が原因になることも多いと思います。互いの違いを尊重する態度や、自分の気持ちをしっかり伝えるコミュニケーション力の育成も大切です。「失敗は立ち直る経験をする場」と考え、様々なことに挑戦させることや、目標を立てて困難に立ち向かうといった心の強さを育むことも考えなくてはならないと思います。

3 防災講演会に参加して

8月18日(土)に初倉公民館で行われた防災講演会に参加しました。講師は、宮城県石巻市立大川小学校の元校長、千葉照彦先生でした。千葉先生は、大川小学校の被災後の処理にあたった校長です。そのため、講演内容には自分ごととして受け止めなくてはならないことがたくさんありました。その中でも印象に残っていることを二つ紹介します。

一つは、島田市でも津波に対する教育が必要であるということです。島田市の学校が津波の被害を受けなくても、子供たちは出かけた所で津波に合う可能性はあるから、津波に対する対応や知識を身につけておかななくてはならないと言うのです。このことは、津波だけではなく、土砂災害や洪水・テロなどに対しても同様です。

二つ目は、保護者や地域住民との信頼関係の大切さです。千葉先生は、信頼関係には情報の共有が重要だと強調されました。極限的な状況では、疑心暗鬼になりがちのため、情報の共有なくして避難所運営はできないと言っています。各学校は避難所のマニュアルを持っています。この内容を自治会と共有し、地区住民や保護者に周知しておくことが大切です。大震災は、必ず起こる災害です。先例に学び知識と心の備えをしておかなくてはならないと思います。

4 地区夏祭りに参加して

市内各地で夏祭りが行われています。私が六合地区の夏祭りに行くと、多くの中学生がボランティアとして参加していました。公民館職員に聞くと 50 人近くの中学生が参加しているということでした。また、六合中学校の吹奏楽の演奏や六合小学校のダンスなど、出演した子供たちもたくさんいました。初倉地区の夏祭りにも多くの中学生がボランティアとして参加したと聞きました。このような地区の行事へ参加した経験が、この夏の思い出となり、中学生が大人になった時の地域貢献につながればと思います。

また、夏祭り以外にも様々なイベントが開催され、多くの子供たちが参加しています。伊久美を会場にした「サマーオープンスクール」や笹間を会場にした「しまだガンバ」のキャンプは、市教委主催で行われました。8月2日（木）には、おおりにおいて大井川「川まつり」が行われました。ウナギやナマズなどの展示、笹舟づくり、発電体験、アメリカザリガニつかみ、救助用ゴムボート乗船体験などを、多くの子供が楽しんでいました。また、スタンプラリーには景品もあり、夏休みの思い出になった子供は多かったと思います。



肘かけ椅子

加藤 雅通 スポーツ振興課長

「スポーツ推進委員」

8月19日（日）、県下のスポーツ推進委員が一堂に会する、平成30年度静岡県スポーツ推進委員研究大会が伊東市で開催されました。今年は、島田市のスポーツ推進委員が事例発表の当番となり、トランポウォーク普及の取り組みを中心にスポーツ推進委員の活動について、発表を行いました。この発表に向けて、1年前から準備に取り掛かり、発表の前日には2時間もの入念なりハーサルを行うなど、大変熱心に準備を進めてきました。その甲斐もあり、発表は完璧、質問タイムでも、大変多くの質問があり、島田市の取り組みに大変関心を持っていただきました。

スポーツ推進委員は、市が掲げている、「市民ひとり1スポーツ」の目標を達成するため、ニュースポーツ教室の指導など様々な活動を行っています。皆さんスポーツが大好きで、熱心な人たちばかり。「どうしたら、多くの人が、スポーツを楽しんでくれるのか？」と、常に考え、活動してくれています。

皆さんはどれだけスポーツ推進委員の活動のことを知っているだろうか？行政としても、スポーツ推進委員の活動を知ってもらうため、もっとPRをしなければいけないと改めて感じたところです。一人でも多くの人にスポーツに親しんでいただき、「市民ひとり1スポーツ」を目標に、健康で明るく活気に満ちた生活を送っていただけるよう、生涯スポーツの推進に努めていきたいと思っています。